

TOTEM POLE PHOTO GALLERY × gallery 176交流展

淵上裕太写真展「上野」

作家名：淵上 裕太

会場：gallery 176 (ギャラリー イナロク)

大阪府豊中市服部元町1-6-1 / 阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2019年12月6日(金)～12月17日(火)

休廊日：12月11日(水)、12日(木)

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176 松原豊



© fuchikami yuta

展覧会概要：

TOTEM POLE PHOTO GALLERY × gallery 176交流展企画第二弾として、TOTEM POLE PHOTO GALLERY運営メンバー淵上裕太さんをお招きして写真展を開催します。来年7月にはgallery 176運営メンバー松原豊がTOTEM POLE PHOTO GALLERYで展示を予定しています。

淵上さんは、松原が非常勤講師を務めている専門学校名古屋ビジュアルアーツの教え子になります。在学時から人物、特に「なかなか声をかけづらいのではないかと」思われる人達に実直に向き合いながら撮影を進めること、自分でプリント制作することにこだわっていて、卒業後もその方法を変えずに作品制作を続けている教え子の中では数少ない写真家だと認識しています。

今回、卒業後東京に就職してから撮影をはじめた上野公園で撮影された人物たちの写真シリーズを、関西初の写真展としてgallery 176で開催致します。日常あまり目を向けない人たちに声をかけながら向けた淵上さんの視線。その視線から生み出される白黒写真の中にある「ひとりひとりの個人」という存在感を展示会場で確かめていただければ幸いです。

gallery176 松原豊

作品説明：

ほかの人間が存在し

僕以外人間がRPGのキャラクターでも通りすがりの影でもない。

一人の人間として存在していることを強制的に本能に訴えかけてきた。

僕は、世界に一人しか存在しないのではないかと？

確かめるため、

息をするために

人と関わり撮影をしてきた。

上野は、人が人として存在している。

安らかな気持ちを与えてくれる。

夕陽に照らされた池の蓮

風に揺れる一枚の花弁

ゆっくり時を刻むごとに水面の輝きを纏っていく

人々もまた変わっていく

いまこの瞬間の『上野』が必要だった

お手製の帽子を被ったおじさん

毎月、10年間上野公園の同じ木を写真に撮りに来る新潟の人

大雪の中、誰もいない公園で『もう少し待ってみる』と笑顔で話す立ちんぼのお姉さん

同じ時を刻む人々の姿

僕は、今東京にいる。

僕たちは今を生きている



© fuchikami yuta

淵上 裕太 (ふちかみ ゆうた)

略歴

1987年 岐阜県生まれ

2014年 名古屋ヴィジュアルアーツ 卒業

個展

2015年 「瞼に映る黄色」 Bar 鳥渡・東京

2015年 「瞼に映る黄色」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2015年 「還る」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2016年 「どうすることもできない」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2016年 「路上～私の心を奪うために～」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2017年 「Spotlight」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2017年 「路上Ⅰ」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2018年 「路上Ⅱ」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2018年 「路上Ⅲ」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2019年 「路上Ⅳ」 Totem Pole Photo Gallery・東京

2019年 「UENO PARK」 Art Gallery NAGOYA

関連イベント

調整中

開催日時：未定

料金：未定

お問い合わせ先

淵上裕太写真展「上野」に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

gallery 176 (ギャラリー イナロク)

担当：松原豊

tel：050-7119-9176

e-mail：info@176.photos